

2026年 日本経済の構造転換と インフレの定着

「生活苦」の先にある産業・家計・政策のニューノーマル



分析・提言：戦略企画室
データ基準日：2026年2月

デフレからの不可逆的な脱却：2026年を定義する3つの構造変化



+2.9%

新コアコアCPI

インフレの質の変化

エネルギー補助金が表面数値をマスクしているが、基調的なインフレ圧力は高止り。輸入コスト主導から、粘着的なサービス・賃金コスト主導へ移行。



10,261件

企業倒産件数（12年ぶり）

産業の新陳代謝

インフレ・人手不足・金利の「トリプルパンチ」がゾンビ企業を淘汰。価格転嫁できない企業の退出が進む。



0.75%→1.0%

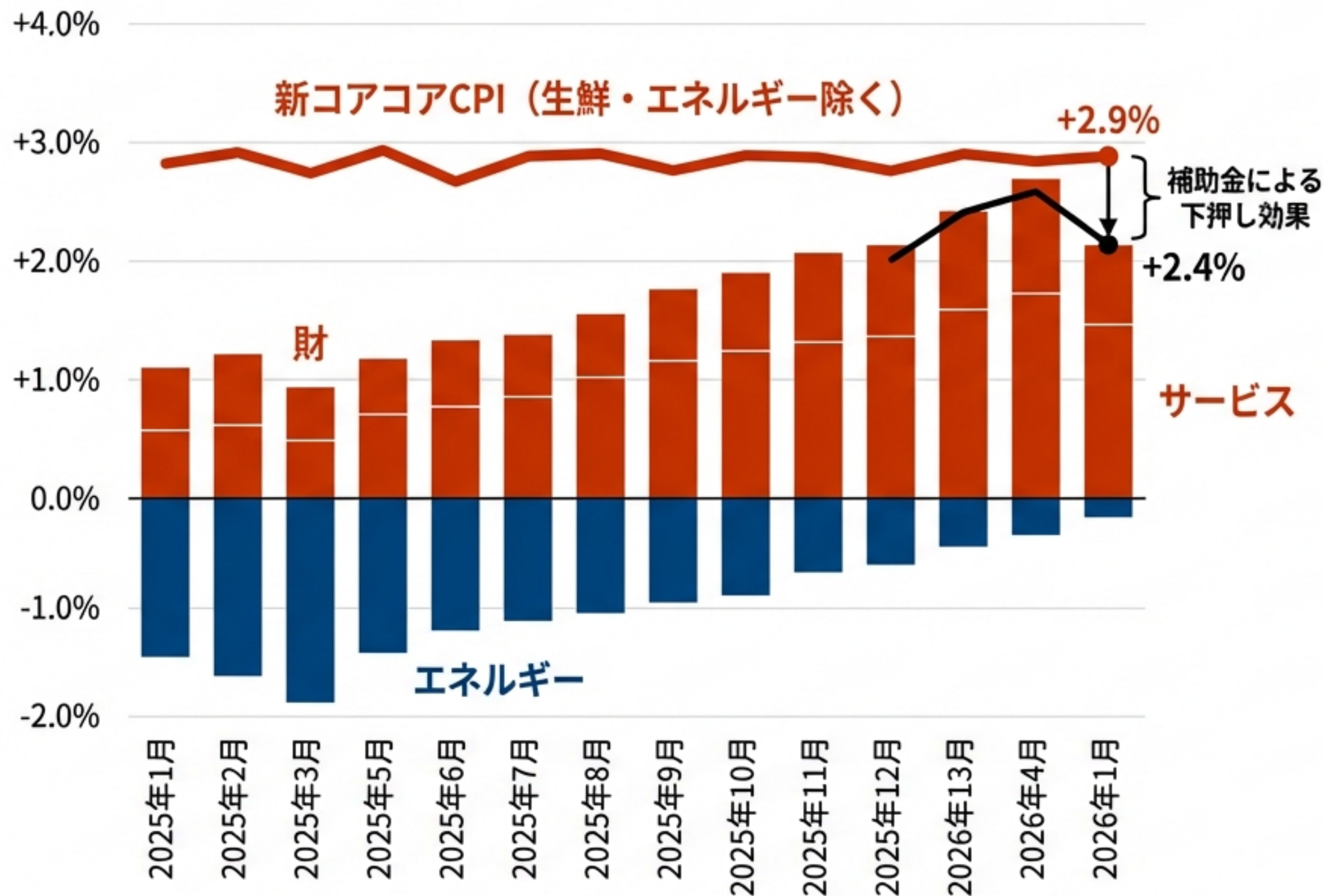
政策金利見通し

金利ある世界

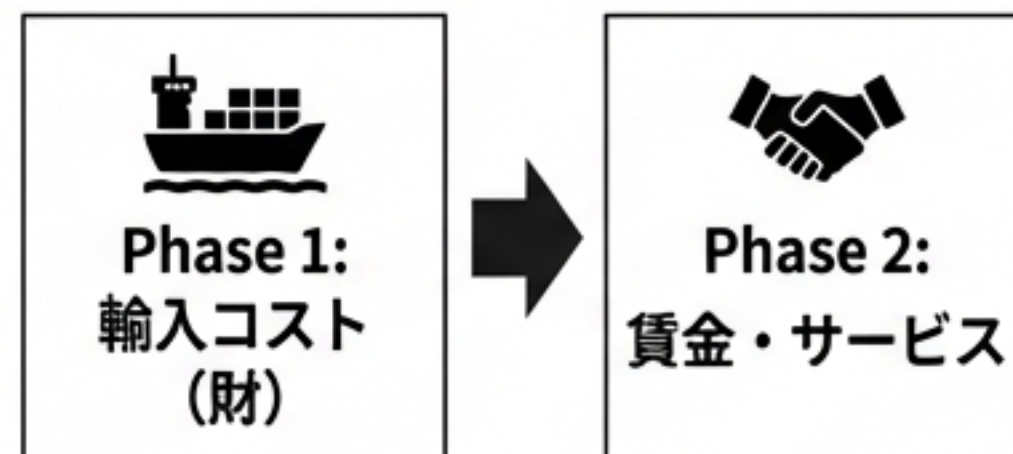
「無料の資金」時代の終焉。金利負担が企業経営と家計債務を規律し、構造改革を強制する。

結論：日本は「悪いインフレ」から、痛みを伴う構造調整を経て「筋肉質な経済」への過渡期にある。

エネルギー補助金が隠す「真のインフレ圧力」は3%近傍で高止まり



インフレフェーズの移行



- 全国CPI (12月) : +2.4%
- 東京都区部 (1月) : +2.0%
- 真の圧力 (新コアコア) : +2.9%
- 外食・宿泊・家事代行などのサービス価格が粘着的に上昇中

出所：総務省 (2026/1/23公表)

聖域の崩壊：市場原理が関税障壁を突破した「コメ95倍」の衝撃

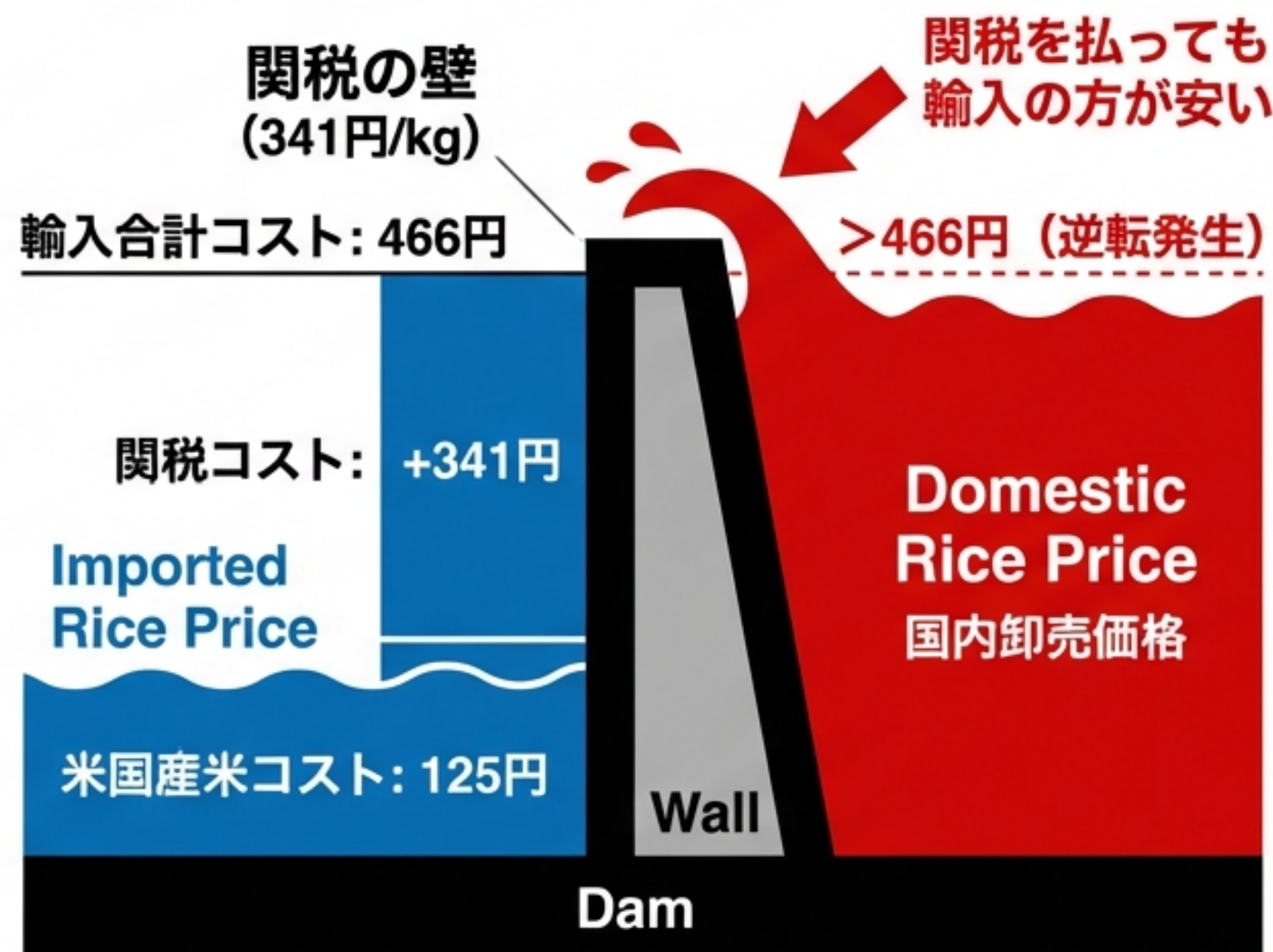
THE SHOCK

95倍

2025年 民間輸入米
増加率

輸入量: 96,834トン

THE MECHANISM



「令和の米騒動」が残した恒久的な市場変容



調達構造の転換

大手外食・中食（弁当）チェーンが米国・台湾産米へ切り替え。商社が輸入オペレーションを確立し、国産シェア**約2.8%**が恒久的に消失。



購買行動の変容

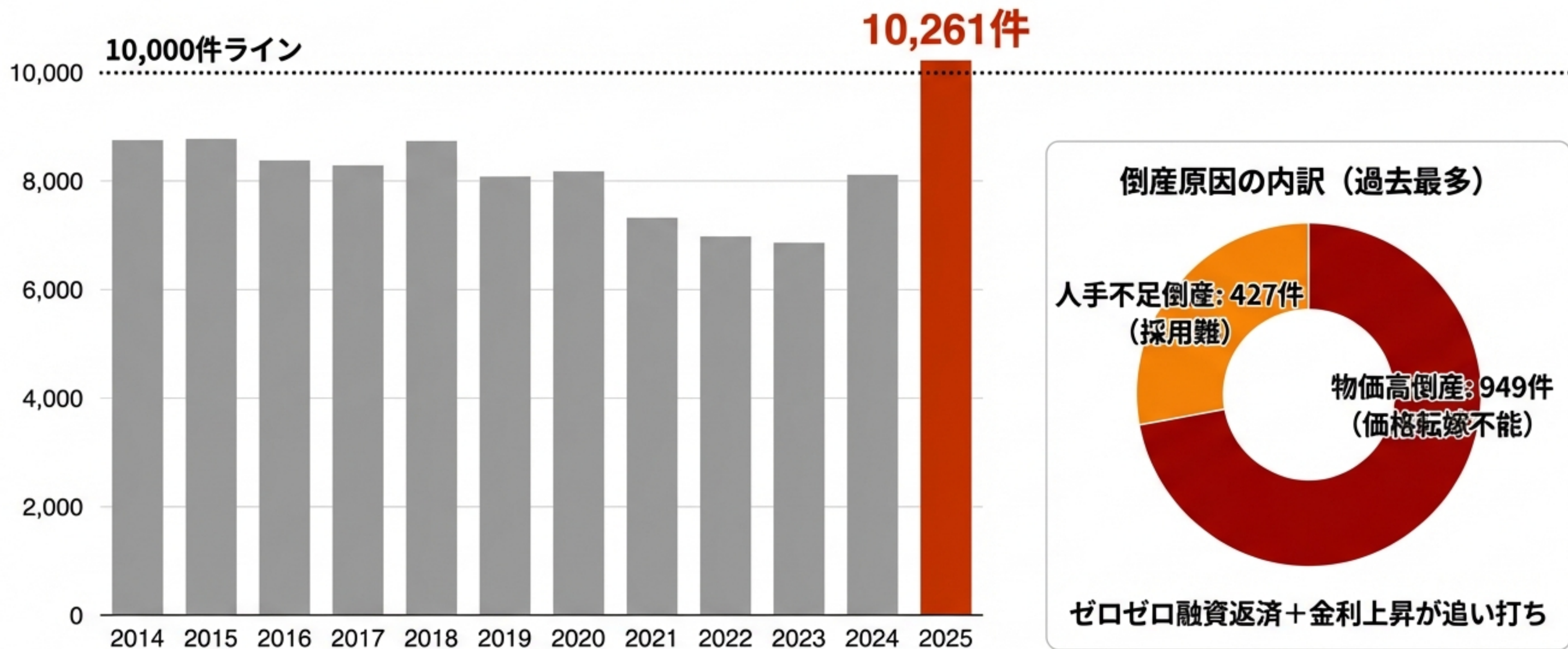
東京都区部コメ価格 **+26%**（Jan 2026）。消費者はパン・麺類への代替や、安価なブレンド米（**輸入混入**）へシフト。



備蓄制度の限界

政府備蓄20万トン放出も価格抑制効果は限定的。「**物理的不足**」への備えであり、「**価格高騰**」に対応できない制度疲労が露呈。

12年ぶりの1万件突破：インフレ・人手不足・金利の「トリプルパンチ」



淘汰の論理：価格決定権を持たない企業と、人を惹きつけられない企業の退出が進む。

苦境セクターの共通項：労働集約型ビジネスモデルの限界

建設業：固定価格契約の罠

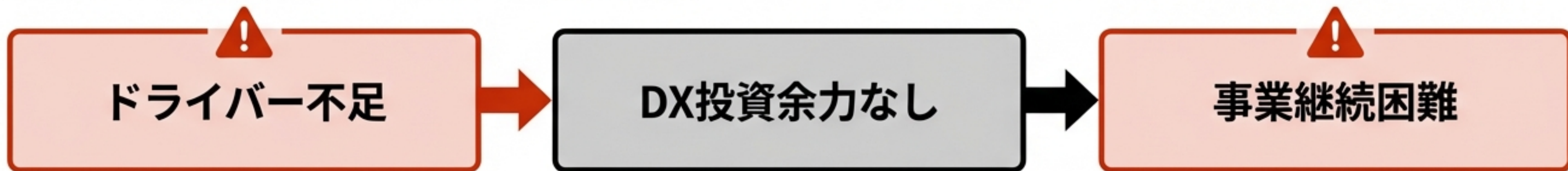
倒産 **2,021件 (+6.9%)**



2024年問題（残業規制）による人手不足が致命傷に。

物流業：小規模事業者の限界

人手不足倒産が高止まり

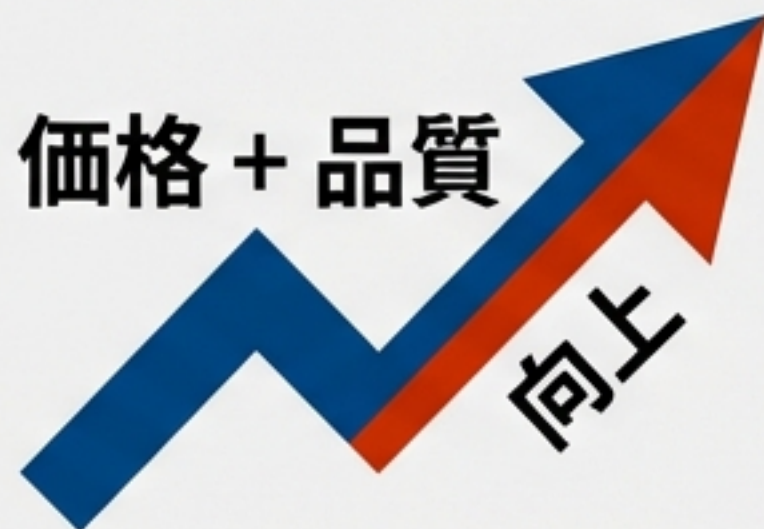


運賃転嫁に成功した大手と、対応できない中小の二極化。

二極化する生存戦略：価格決定権とテクノロジー投資

戦略 A：高付加価値化

Royal Host（ロイヤルホスト）



「高価格でも選ばれる」ブランド構築。
メニューの質的向上と同時に価格改定を実施し、
客単価増を実現。

戦略 B：徹底的な省人化

Summit × Hitachi / Skylark



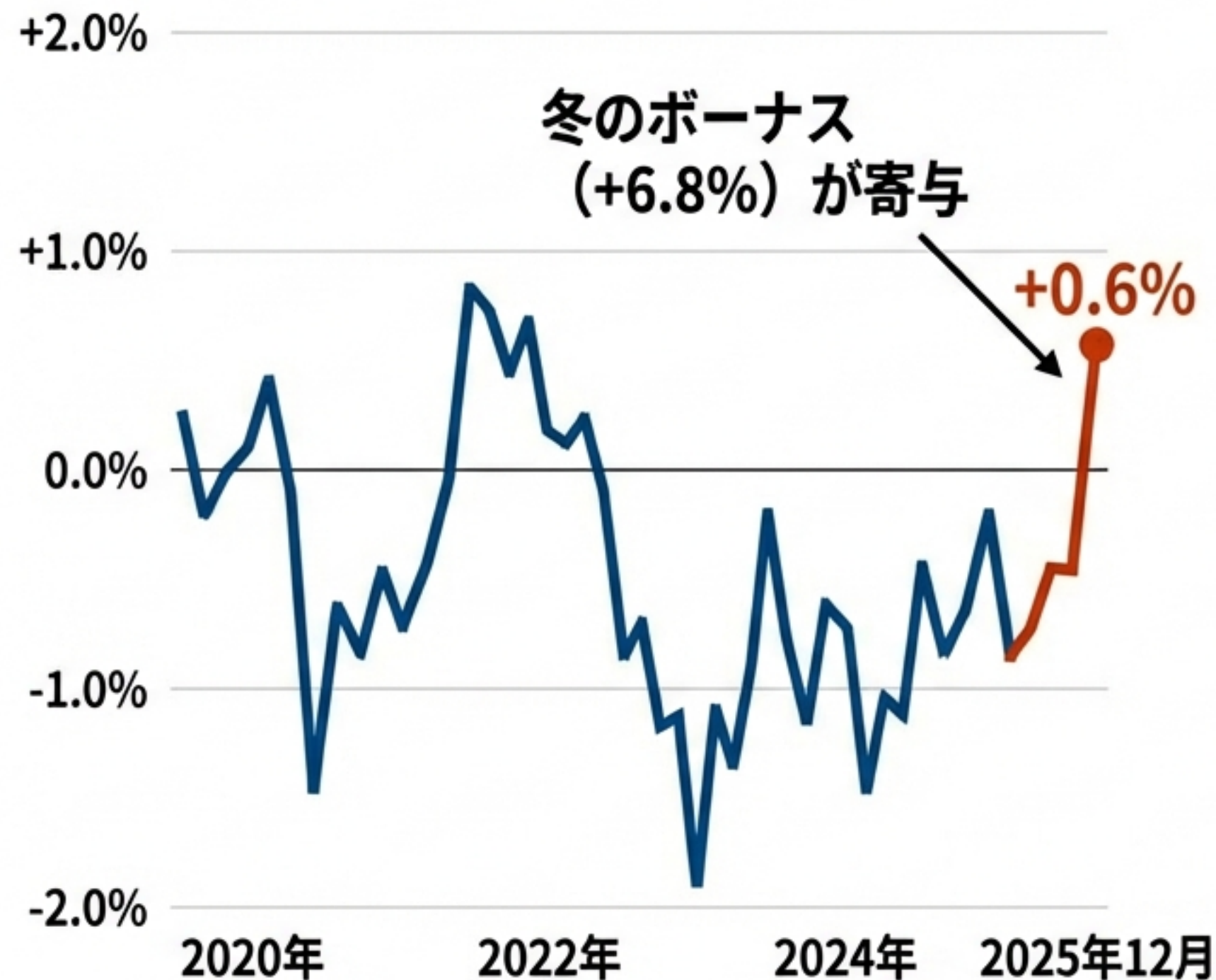
AI需要予測（サミット）によるロス削減。
配膳ロボット（すかいらーく）による
店舗オペレーションの無人化。



食品値上げ頻度は**減少(-59%)**したが、1回あたりの**値上げ幅(16%)**は大きい。
理由は**原材料費**から**人件費**へシフト。

実質賃金プラス転換の光と影：中小企業への「防衛的賃上げ」圧力

実質賃金（対前年同月比）



2026年春闘の構図

- 連合目標：5%以上
- 大企業（鉄鋼・重工）：
ベア1.5万円維持（満額回答へ）

中小企業の「防衛的賃上げ」

生産性向上なき賃上げ。「賃上げしないと人が採れず倒産する」ため、無理をしてでも賃金を上げざるを得ない。これがさらなるサービス価格への転嫁圧力となる。

「買い手市場」の終焉：ジョブ型雇用と初任給競争の激化

完全な売り手市場

求職者 (Seller)

企業 (Buyer)

初任給インフレ

初任給の急騰が、既存社員の賃金カーブを圧縮。全体的なベースアップ圧力が不可避。

ジョブ型雇用への移行

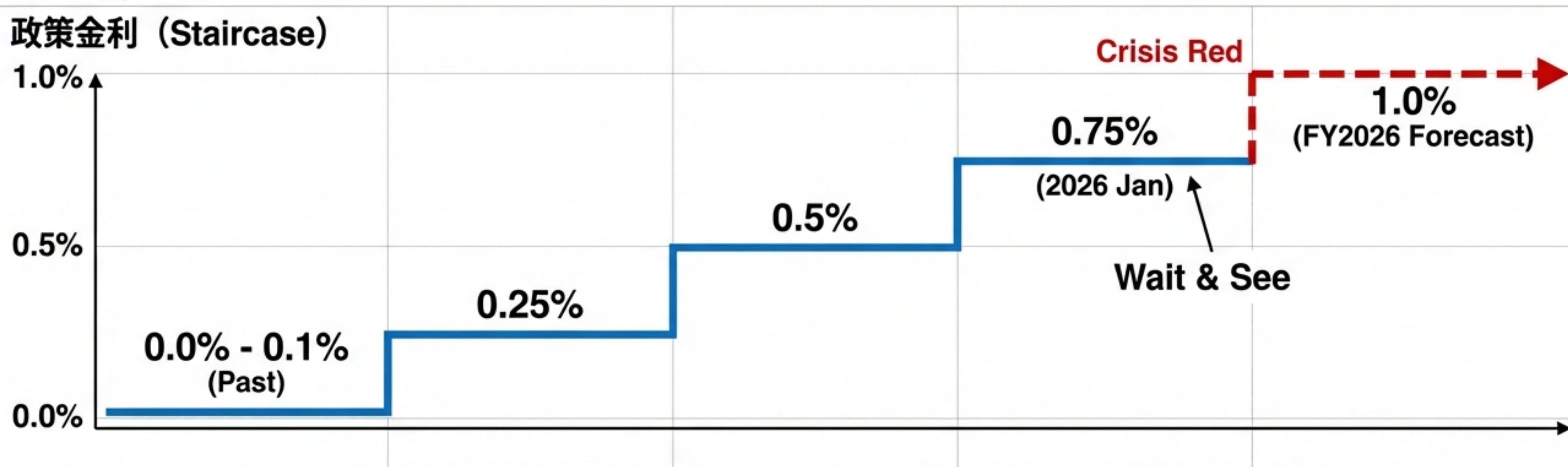
「市場価値」に基づく報酬体系へ。高スキル人材（インフレ勝者）と低スキル人材の格差拡大。

採用難倒産

選ばれない企業は、事業継続の土台（人材）を失う。

「金利ある世界」の帰還：0.75%から1.0%へのシナリオ

Reading Deck



市場・経済への影響

企業財務 (Corporate)

有利子負債のコスト増。
ゾンビ企業の延命終了。

市場・経済への影響

為替 (Forex)

日米金利差縮小による円高圧力。
輸入物価 (財) は安定化、
国内物価 (サービス) は上昇。

実質金利

依然としてマイナス圏 (緩和的)
だが、引き締め方向へ。

インフレ時代の企業生存戦略マトリクス

 **Price-Making**
(価格決定)

値決めへの転換

コストプラスから価値ベース価格へ。公取委指針を活用し、B2Bでの労務費転嫁を断行する。



 **Labor-Saving**
(省人化)

生存投資 (DX)

効率化レベルではない、需要予測AI等による「在庫キャッシュフロー」の改善。



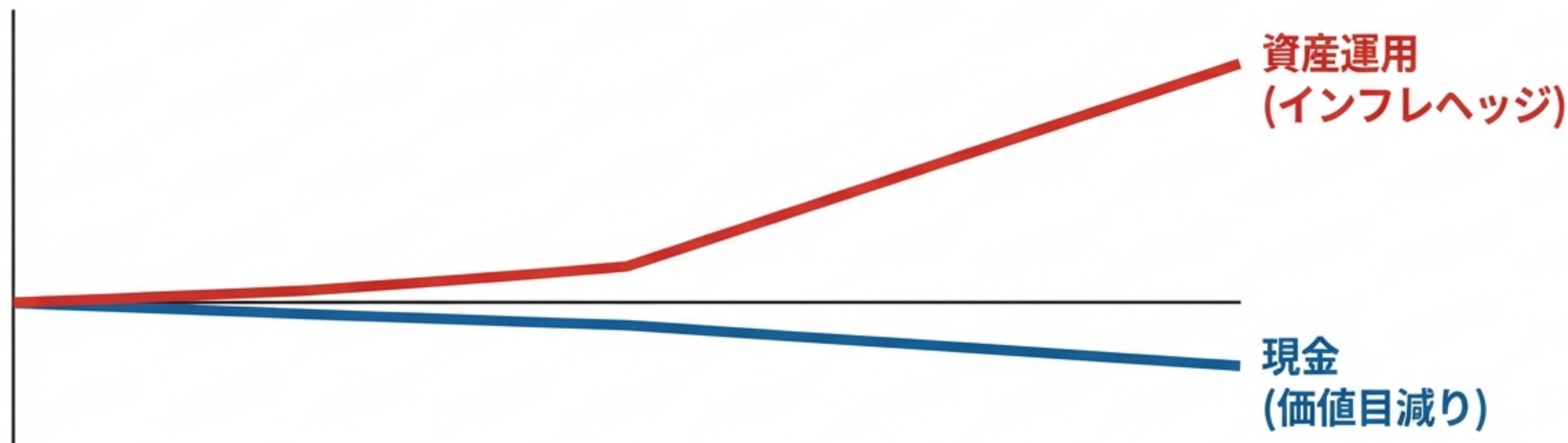
 **Scale**
(規模拡大)

M&Aと再編

業界再編は不可避。「買うか、買われるか、退出するか」の意思決定。



家計の防衛策：貯蓄から投資へ、生活防衛のニューノーマル



The Divergence (格差)

 低所得・年金世帯: 食料品高騰でエンゲル係数上昇。生活苦継続。

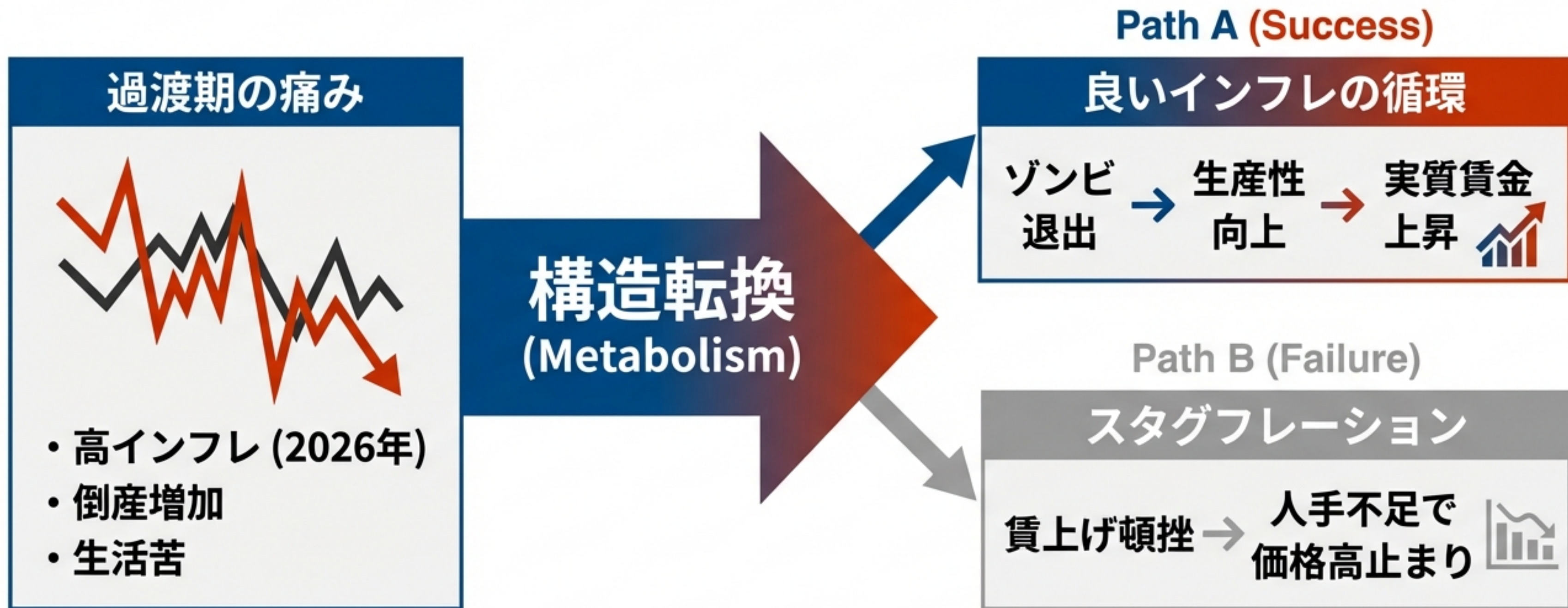
 現役・資産保有層: 賃上げと資産インフレで実質購買力維持。

Action (対策)

 資産運用 (NISA): インフレ率 > 預金金利の定着。投資は必須の生活防衛。

 住宅ローン: 変動金利リスク顕在化 (0.75% → 1.0%)。固定への借換や繰上返済の検討。

結論：「悪いインフレ」から「良いインフレ」への過渡期



デフレ時代の成功モデルを捨て、変化に適応した者だけが生き残る。

Appendix: 主要経済指標と予測サマリー

指標	現状/実績 (2025-26)	予測/見通し	備考
コアCPI (除く生鮮)	+2.4% (Dec '25)	+2.0%~2.5%	エネルギー補助金が数値を抑制
政策金利 (日銀)	0.75%	1.0% (年度内)	利上げバイアス継続
企業倒産件数	10,261件	高水準維持	建設・物流・人手不足が主因
コメ輸入量	96,834トン	定着	前年比95倍の衝撃
実質賃金	+0.6%	プラス定着？	ボーナス依存からの脱却が鍵